

(第3時限：80分)

2021年度 ⑤

# 選 択 科 目 (全49ページ)

## 問 題

	ページ
政治・経済 .....	1～6
日 本 史 .....	7～18
世 界 史 .....	19～30
地 理 .....	31～44
数 学 .....	45～49

### 注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 解答する科目

受験学部	解答する科目
経済学部	「数学」を解答すること
上記以外の学部	政治・経済、日本史、世界史、地理、数学から1科目選択

(注) 受験学部を受験票で十分に確認すること。

3. 解答はすべて別紙の解答用紙に記入しなさい。
4. 試験終了後、問題冊子・選択しなかった解答用紙は持ち帰りなさい。

## 世界史

I 次の文章を読んで空欄に最も適切な語句を記入し、下線部についてあとの問いに答えよ。

1998年に公開されたディズニーのアニメーション映画『ムーラン』は、古い中国の伝説に題材をとった冒険活劇である。兵役を命じられた年老いた父に代わり、その娘が男装して従軍し遊牧民族の軍と戦うという内容であるが、原型となった物語が存在する。それは中国南北朝時代に成立した民間歌謡「木蘭詩」である。

その舞台がいつどこであるかについては諸説あるが、北魏王朝と柔然との抗争<sup>(1)</sup>を背景としているという説が有力である。「木蘭詩」の主人公木蘭は12年間戦い、功績を挙げて凱旋するが、戦友たちの「木蘭が女性だと気づかなかった」という驚愕の言を述べて終わる。これは極端な逸話であるが、北朝社会には女性の活躍を許容する雰囲気があったようである。

南朝貴族の顔之推<sup>(2)</sup>という人物は、6世紀半ばの  王朝崩壊によって北朝に連行され、北周から北斉、再び北周、北周が滅んで隋へと流転した経歴の持ち主であるが、自己の悲惨な体験を踏まえて、子孫に訓戒した書物を著した。『顔氏家訓』という。そのなかで南朝と北朝の文化の違いを述べているが、北朝の女性について、上流階級の婦人たちは、夫や息子のために官職を求めて運動し、自ら訴訟を起こす。又、夫妻の間で互いに「おまえ」と呼び合うと述べている。これは、深窓にひきこもる南朝の婦人とは対照的で、遊牧民族の風習の影響<sup>(3)</sup>ではないかと推測している。

実際、北朝には政治的に活躍した女性が多い。北魏第6代孝文帝の祖母馮氏は太皇太后として政権を掌握し、490年に死去するまで実質的に執政者の地位にあった。臣下たちは孝文帝と馮太后を「二聖」と呼んだが、「聖」とは聖人つまり皇帝のことであり、二人の皇帝というわけである。均田制や三長制といった重要な政策は彼女の執政中に施行された。また馮太后は孝文帝に漢族の教養を教え込み、これが孝文帝が親政期に、 政策を断行する下地となったとされる。

北魏以後、やはり「二聖」と呼ばれた男女がいた。後に隋の文帝となる

とその妻<sup>どっこから</sup>独孤伽羅である。独孤氏は  の一族よりも格上の家系の娘で、夫が北周王朝を滅ぼし、新王朝樹立を目論んだときに、「騎虎の勢い」という名言を吐いてその野望を後押しした。「虎に<sup>またが</sup>跨っている状態では、逡巡して虎の背から降りると食い殺されるので、そのまま突っ走れ」という意味である。

皇后となった独孤氏は、文帝を支えて政治に対する意見を述べたので、臣下は彼らを「二聖」と呼んだ。

ところが、波乱もあった。独孤氏は側室を置くことを忌み嫌っていて、文帝が心を寄せた女性を殺害するに及ぶ。傷心の文帝はひとり宮殿を抜けだし、山中をさまよう事件が起こった。この母親の心情につけこんだのが次男の楊広である。兄の皇太子は側室を寵愛し正妻をないがしろにしていたので、母の独孤皇后から憎まれていた。楊広は正妻を尊重し、夫婦円満を演出して母に取り入ると、皇太子の位を兄から奪ったのである。

こうして即位した第2代皇帝が  帝である。彼は、 遠征が致命的失敗となり、亡国の君主となってしまう。それでうがった見方をすれば、隋を滅ぼしたのは「独孤皇后の嫉妬」と言えないこともない。以上が、正史『隋書』に記されている隋帝室の物語である。

だが、そもそもこの『隋書』は、隋の諸皇帝をライバル視する唐の太宗が編纂させたものなので、その政治的意図は明らかであろう。

唐の太宗の皇后長孫氏は賢夫人の評判が高かったが、彼女が逝去すると、太宗の怠惰が目立ち始め、息子たちが権力闘争を始めた。次期皇帝の座を勝ち取ったのは九男の李治であるが、彼とその皇后が、臣下から「二聖」と呼ばれるようになるのが、この後の歴史である。

顔之推のいう「遊牧民族の影響」は唐代まで及んでおり、この後、唐の宫廷ではファッションとして男装を楽しみ、馬上球技である  競技に興じて槌を振りまわす女官たちの姿がみられ、長安の町では馬に跨って闊歩する貴婦人たちが人目を引いたのである。

- 〔1〕 北魏王朝の前期， 5 世紀末までの首都はどこか。
- 〔2〕 (a) 顔之推の子孫顔師古<sup>がんしこ</sup>は， 前漢王朝一代の歴史を記した紀伝体正史に注  
釈を施したことで有名である。この歴史書は何か。
- (b) 同じく顔之推の子孫で 8 世紀の唐王朝を代表する書道家は誰か。
- 〔3〕 北魏の帝室の民族名を挙げよ。

(このページは空白)

Ⅱ 次の文章を読んで空欄に最も適切な語句を記入し、下線部についてあとの問いに答えよ。

1949年10月に成立した中華人民共和国は、最近では数少なくなった「社会主義大国」としてさまざまな話題を世界に向かって提供しているが、そもそも建国時においては「社会主義」化はずっと遠い先の課題であるとされていた。すなわち中国共産党は、中華民国の政権を握っていた中国 **A** との内戦に勝利するまでの過程では、幹部の腐敗や猛烈なインフレなどに反対する各界人士との連合を優先させた。よって1949年9月末に公表された中国人民政治協商会議共同綱領において、建設すべき社会は「新民主主義」であると明示されたのであった。

ところが、朝鮮民主主義人民共和国が朝鮮半島の統一を目指して発動した朝鮮戦争にあたり、1950年末に米軍を主軸とする **B** 軍が中国国境付近にまで進軍するや、中国は北朝鮮を支援すべく正規軍部隊を人民 **C** 軍と名付けて派遣した。建国早々、対米戦争勃発をも辞さない選択をしたのである。朝鮮戦争を機に、戦後東アジアの国際情勢には大きな変化が発生した。日本では警察予備隊が発足し、また1951年には社会主義国や一部のアジア諸国の不参加や反対にもかかわらず、サンフランシスコ講和会議で平和条約に調印し、同時に **D** 条約も締結され、東西冷戦の一翼を担う道を歩んだ。

この時期の中国は、外圧を利用した内政の変革に着手した。1950年6月に始まる土地改革によって没収された地主の土地は小作農に再分配され、1952年末までにほぼ全土でこれが完成した段階にあった。また、建国当初は民族ブルジョアジーが経営する企業などは同盟・保護の対象とされていた。だが、対外危機を契機に強引に進められた急激な集団化の過程で、結局は国家によって回収されてしまったのである。<sup>(1)</sup>

こうした傾向は、対少数民族政策でも指摘できる。例えばチベットの場合、1951年から実質的に中華人民共和国の支配下に置かれていた。その信仰の指導者である **E** 14世は当初は丁重な扱いを受け、全国人民代表大会常務副委員長（1954年）やチベット自治区準備委员会主任委員（1956年）にも選任された。さらに、1954年には国務院総理だった **F** のインド訪問にも同行している。ちなみにこのイン

ド訪問時に発表された、領土保全及び主権の相互不干渉・相互不侵略などを内容とする [ G ] は、そもそもチベット・インド間の係争を念頭に置いたものであったが、1959年前後から国境をめぐるトラブルは再燃した。また1959年3月には、チベットの中心都市である [ H ] 市において、漢人への同化政策や社会主義化に反発した市民や僧侶が激しい抵抗運動を起こした。中華人民共和国は正規軍を動員してこれを鎮圧したが、 [ E ] 14世はインド北部のダラムサラへと亡命して、現在に至っている。さらにこの亡命劇の直後から中印国境をめぐる紛争は激化し、1962年10月には大規模な軍事衝突が発生したが、<sup>(2)</sup>この問題も今日に至るまで解決していない。

- [ 1 ] 農民に分配された土地が集団所有の論理に従って再編された組織を何と呼ぶか。
- [ 2 ] 中華人民共和国は1960年代になると、かつては社会主義の兄弟国として多大な支援を受けたソ連とも対立し、1969年にはウスリー川の中洲の領有をめぐって双方から死者を出す軍事衝突が発生した。中ソ対立の契機となるスターリン批判を行った当時のソ連共産党第一書記は誰か。

Ⅲ 次の文章を読んで空欄に最も適切な語句を記入し、下線部についてあとの問いに答えよ。

現代も大きな影響をもたらしている感染症は、歴史の中で人類をしばしば脅かしてきた。大河流域の文明発祥地では、まず灌漑農法が発達し、そこで農業用に引かれた水に入って働く人間が寄生虫症にかかる確率が上昇した。<sup>[1]</sup>しかしこれは古代の文字史料に記録されることはなかった。これに対し、感染症は目に見える症状と高い死亡率のために人口増減や戦争に影響を与え、しばしばその被害が文字史料に記録されてきた。

例えばメソポタミア文明では、シュメール人の都市国家ウルクの伝説的王の冒険を描いた **A** があり、大洪水を除く4つの災厄の中に疫病が含まれていた。古代のエジプト、中国においても、同様に疫病が重大な関心事であった。また旧約聖書には、紀元前13世紀頃の **B** 人の指導者で、彼らを率いてエジプトを脱出したモーセの記述があり、神のお告げによって彼がエジプトに与えた災いの1つに、「<sup>すす</sup>煤がエジプト全土の人と家畜に降りかかり、<sup>うみ</sup>膿の出る<sup>はれもの</sup>腫物となる」疫病があった。同じく **B** 王国第2代のダヴィデ王は、人口調査を行ったことが神の怒りに触れ、**B** とユダの男子7万人が亡くなったと記述されている。一方で、**B** に侵攻したアッシリア王センナケリブの陣営は、「神の使者」の訪問によって一夜のうちに18万5,000人が倒された、とも記録されている。<sup>[2]</sup>これらはオリエン  
ト世界におけるさまざまな疫病の発生が神話や物語の形で記録されたものである。

インド亜大陸に発生した文明の場合、多くの諸王朝が交替した要因として、弱い<sup>[3]</sup>軍事構造と高温多湿気候による疫病の蔓延があったとする意見もある。マケドニアの **C** 大王は、東方遠征でアケメネス朝ペルシアを滅ぼしたのちにインダス川<sup>[4]</sup>まで到達したが、その先に進出することはできなかった。また北方から侵攻したアーリヤ人の集団も、北インドで疫病による多数の死者を出したとされている。インドでは職業と結びついた社会層であるジャーティがあり、これに基づいてカースト制度が成立した。この制度は、インド土着の先住民である **D** 系民族に疫病の耐性があるのに対し、アーリヤ人の支配民族は耐性が低く、互いを避ける意識から発生したのではないかとも考えられている。事実、インドではアーリヤ人と先住



民の肌の色の違いから [E] と呼ばれる 4 つの種姓が作られた。

地中海世界の場合、古代ギリシアからローマ帝国成立までにマラリアの発生があったが、人口増加を止めるほどの影響はなかった。例えばアテネは止まらぬ人口増加の影響から掠奪のために軍事遠征を繰り返しており、前431年からアテネを中心とするデロス同盟と、スパルタを盟主とする [F] 同盟が衝突して戦争が起こった。しかし前430～前429年に疫病が発生し、アテネ軍の4分の1が死亡したことで、アテネ市民の士気は失われていった。アテネの歴史家で [F] 戦争をもとに『歴史』を著した [G] は、この病がエチオピアからエジプト、リビア、ペルシア経由で伝わった未知の病で、アテネを突然襲って消えていったとしており、この打撃からアテネが軍事的に回復することはなかったとされる。アテネの例に見られるように、地中海世界は未知の病への耐性はなかったが、人口増加は疫病による死亡数を上回っていた。人口増加と関連して、[C] の父である [H] はアテネとテーベの連合軍を破って全ギリシアを統一すると、ペルシアへの領土拡大を試みた。

ローマ市の場合、前387年から11回の疫病が襲ったと、[I] 帝時代を中心に活躍した歴史家リウィウスが伝えている。疫病発生にもかかわらず、ローマ帝国成立初期までは下層農民を中心に人口増加が続いていた。しかし165～180年に襲った疫病はより大規模で長期間にわたり、その持続性から天然痘か、はしかだった可能性が指摘されている。これ以降に起こった疫病は、地中海世界に長期的な人口減少をもたらしたと考えられる。無人の土地が増え、2世紀から北の「蛮族」に対して軍事的奉仕契約を結んで帝国内に居住を認めるようになり、「3世紀の危機」と呼ばれる時代に軍人皇帝が擁立された。この混乱を取って即位したディオクレティアヌス帝<sup>[5]</sup>は、一連の立法で耕作者が土地を離れることを禁止した。ローマ帝国の小作人が4世紀までに移動の自由を制限され、[J] と呼ばれる身分になっていったのも、こうした人口減少による帝国衰退が背景にある。この [J] は、その後の中世西ヨーロッパにおける農奴の前身であった。

ペストは中世まで遠隔地交易などによりインドや西アジア、アフリカからヨーロッパに伝播し、何度も発生した。その理由の一つは、ペストが近代に開発された抗生物質の投与以外に治療法がなく、死亡率が高いため、伝染した土地の人間が短

期間に大量死して終息するパターンを繰り返したからである。ペストの治療法発見が遅れた一方、ヨーロッパ人は他の疫病への免疫を次第に獲得し、彼らがアメリカ大陸に進出したことで、インディオは天然痘などに感染して人口が激減したと言われる。これは未知の病に対し、人間の身体が非常に弱いことを示している。

今後も未知の感染症は世界各地で発生すると予測されるが、現在に至るまで人類が多くの感染症治療に努力し、免疫の獲得と医療の向上によって克服してきたこともまた歴史の事実である。

- [1] 灌漑農法が発達したインダス川下流域の古代文明に関する遺跡が1922年に発見された。「死人の丘」を意味するこの遺跡の名称を何というか。
- [2] アッシリア王国が前700年前後から首都としたのは何という都市か。
- [3] 古代インドの諸王朝のうち、前6世紀にガンジス川中流域に成立した16大国の1つで、『ラーマーヤナ』の舞台とされる国は何か。
- [4] アケメネス朝ペルシアの地方行政官である知事のことを何というか。カタカナで答えよ。
- [5] ディオクレティアヌス帝が始めた専制君主政のことを何というか。カタカナで答えよ。

(このページは空白)

IV 次の文章を読んで空欄に最も適切な語句を記入し、下線部についてあとの問いに答えよ。

太平洋上に広がる海洋の世界であるオセアニアは、オーストラリア大陸のみならず、太平洋上に点在する数万の島々からなる地域をさす言葉である。人類は今から4～5万年前、東南アジアから海を渡ってオーストラリアなどに移住して狩猟採集生活を送った。これらの人々はオーストラリア先住民である  の先祖にあたる。一方、高い航海術と土器や新石器<sup>[1]</sup>の技術、タロイモなどの栽培に重点を置く根菜農耕文化を持つ人々が、当時は大陸と陸続きであった現在の台湾からフィリピンを経て、現在のソロモン諸島やフィジー諸島、ニューカレドニア島など比較的大きな島々からなる  へ、そしてさらに赤道以北のミクロネシアへと移動を続けた。その後、現在のサモアやトンガで1,000年間ほど足踏みする間に、より高度な航海術を身につけ、風の強い海上での寒さに耐えうる、筋肉質で大柄な体格となるなど、さらなる海洋適応を遂げた人々は、それまで人類未踏<sup>[2]</sup>の地であったハワイやイースター（ラパヌイ）、そして最終的にニュージーランドへと、ポリネシアの島々全域に拡散した。これは、諸説あるが大体4世紀から13世紀頃のことであるから、人類が陸伝いにアフリカから南米大陸<sup>[3]</sup>にまで到達するよりも、はるかに時間がかかったことになる。

一方、西洋人で太平洋を初めて目にしたのはスペインの探検家、 とされる。彼は1513年にパナマ地峡を横断して目の前に広がる大洋に到達した。さらに1521年、 が南米大陸の南端を回って太平洋を横断した。資源の獲得のみならず、当時のヨーロッパ世界では、太平洋に巨大な南方大陸が存在するという考えがあったため、スペインやオランダがその発見を目指して探検航海を行い、次第にオセアニアの全貌が明らかにされていった。とりわけ1768年から3度にわたって太平洋各地を航海し、ハワイ島で島民との小競り合いの末、命を落としたイギリス海軍軍人、 は、南方大陸が存在しないことを明らかにした。

こうして、広大な海洋世界であるオセアニアの全貌が明らかになるにつれ、ヨーロッパ人の交易者やキリスト教宣教師が押し寄せるようになった。そしてイギリスがオーストラリアやニュージーランドを植民地とすると、ニュージーランドの先住<sup>[4]</sup>

民である **F** 人の抵抗運動が激化した。続いてフランスやドイツがオセアニアの島々を次々と植民地化し、さらに1898年の **G** 戦争後、アメリカがフィリピンやグアムなどを獲得した。<sup>[5]</sup> これらの国々は島々で先住民から奪った土地で農業を行い、地下資源などの採取を行った。カメハメハが築いたハワイ王国も、1893年の親米派住民によるクーデターによって、**H** 女王が退位して王国が滅び、**G** 戦争後にアメリカによって併合された。また日本も第一次世界大戦後、ドイツ領であったマーシャル諸島やマリアナ諸島などを、国際連盟が先進国に保護をゆだねる **I** 領としたが、実質は植民地であった。

オセアニア全域で独立運動が活発になるのは1960年代以降である。独立を果たした島々は、太平洋上で繰り返されてきた核実験に反対し、海面上昇をもたらす地球温暖化<sup>[6]</sup>に対して強い警告を発するなど、国際社会に対する提言を行っている。

- [1] 新石器時代に農具や工具として使うため、砥石<sup>といし</sup>を使用して製作された石器を何と呼ぶか、答えよ。
- [2] 19世紀後半以降、人類未踏の地であった極地探検が行われた。1911年にスコットとの競争に勝って南極点の初到達に成功した人物の名前を、次のア～オの中から1つ選び、記号で答えよ。
- ア. アムンゼン  
イ. タスマン  
ウ. ピアリ  
エ. ヘディン  
オ. リヴィングストン
- [3] 南米大陸のアンデス高地に成立したが、スペイン人ピサロに滅ぼされた帝国の名前を答えよ。
- [4] かつてオーストラリアでは白人優位主義的な政策や思想にもとづき、アジア人などの移民を制限していた。その政策や思想を何と呼ぶか。
- [5] 1899年、フィリピン共和国の独立を宣言し、大統領となったものの、それを認めないアメリカとの戦争を指導して敗れた人物の名前を答えよ。
- [6] 1997年に、地球温暖化をもたらすとされる二酸化炭素などの温室効果ガス削減を目指して、ある国際会議で議定書が採択された。この議定書が採択された都市の名前を答えよ。